

第6回 審判協会便り

《コリジョンルールについて》

コリジョンルールとは (規則書6.01(i) 本塁での衝突プレイ)

捕手が走者の走路をふさいだりブロックしたと審判員が判断した場合の

走者はセーフになります (ジャッジは審判員の判断です)

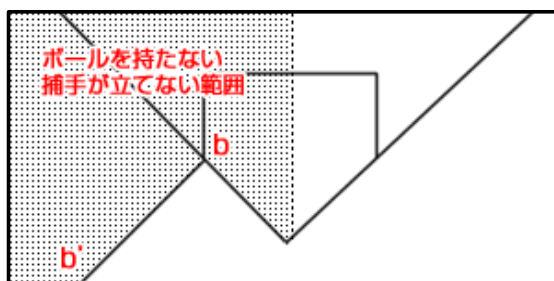
【守備側として】

捕手はボールを持たないで、得点しようとしている走者の進路をふさぐ権利はない。塁線（ベースライン）は走者の走路であるから、捕手はまさに送球を捕ろうとしているか、送球が直接捕手に向かってきておりしかも十分近くに来ていて、捕手がこれを受止めるにふさわしい位置を占めなければならないとなった時か、すでにボールを持っている時だけしか塁線上に位置する事が出来ない。

この規定に違反したと見なされる

捕手（野手）に対して、審判員より

オブストラクションを宣告される



オブストラクションの判定基準

【走者側として】

得点しようとしている走者は、最初から捕手又は本塁のカバーに来た野手（投手を含む）に接触しようとして、または避けられたにもかかわらず最初から接触をもくろんで走路から外れることは出来ない。

もし得点しようとした走者が最初から捕手又は野手に接触しようとしたと審判員が判断すれば、捕手または野手がボールを保持していたかどうかに関係なく、審判員はその走者にアウトを宣告する。その場合、ボールデットとなって、すべての他の走者は接触が起きた時に占有していた塁（最後に触れていた塁）に戻らなければならない。走者が正しく本塁に滑り込んでいた場合は本項に違反したとはみなされない。

アンフェアで危険なプレイは絶対にしないようにお願い致します